



第28号



平成 25 年 3 月 26 日に行われた入社式・総会の様子

2013 年度がスタートしました

今年も平成 25 年度新入職員入社式・平成 24 年度総会を行いました。措置から契約になって約 10 年、地域の福祉事業所もたくさん増え、障害福祉サービスの予算を見ても 2 倍以上になっています。その中で、「とも」が目指す普遍的なサービスは何か?を今一度、職員みんなで考える機会として、各事業の事例報告を行うとともに、私も講演をいたしました。

理事長 西田 良枝

毎年多くの利用者さんや地域の方が楽しみにしてくださっていた「とも」恒例のお花見は悪天候のため断念せざるを得ませんでしたが、公募で採択された「浦安市身体障がい者福祉センター」と「浦安市基幹相談支援センター」、二つの事業がはじまり、新入職員も迎え、緊張とあわただしさの中で 2013 年度がスタートしました。

●浦安市身体障がい者福祉センター

この事業は、既存の地域活動支援センターに加えて、生活介護と機能訓練の多機能型事業を併設し、医療的なケアの体制も含めて多様なニーズに対応できるセンターとして、以下のような概要で事業を展開していきたいと考えています。



▲外観（浦安市総合福祉センター）

浦安市身体障がい者福祉センター 事業概要・期待する効果

* 黄色部分は事業手法の提案部分

医療的なケアが受けられることで、地域や社会とのつながりができて、重い障害があっても役割があることがわかった

学校卒業後、社会生活をしていくための自信とスキルが身についた

自立訓練をした結果、就労への意欲がでた。就労につながった

日中の介護を受けることで心身の状態が安定し、自分の可能性にチャレンジする意欲がでた

自立訓練後
地域活動支援センターに自分の居場所を見つけた

地域のなかで障害のある人がいきいき活動している様子を見て、市民の障害への認識が変わった。身近になった

活動を通じた人と地域のエンパワメント

①障害が重い人が主体的に生きるための活動の支援とそのために必要なさまざまな介護
(生活介護)

②創作的活動又は生産活動
(生活介護)
(地域活動支援センター)

③身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練
(訓練等給付(自立訓練))
(地域活動支援センター)

④関係づくり
・当事者同士の関係づくり
・障害のある人と
ない人の関係づくり
(地域活動支援センター)

センター内、市内の資源を活用した活動

●浦安市基幹相談支援センター（3ページ参照）

「とも」が設立した当時は、障害福祉サービスはまだ措置の時代でした。設立当初から行っていた相談事業は、平成15年には「障害者生活支援事業」という相談事業を浦安市から受託され、障害者自立支援法施行以前でしたが、早々3障がいを対象に24時間365日体制の相談事業として運営を始めました。平成18年以降は、障害者自立支援法に基づく相談事業として運営してきました。相談事業を始めて12年が経ったことになります。

そして、今年度は地域みんなの基幹相談支援センターとして運営させていただくこととなりました。相談事業はそれを利用される当事者の方の人生に関わるとても大きな責任のある仕事です。だからこそ、地域の中の多様な機関の皆



様と連携を図りながら、基幹相談支援センターを含めた市内の相談事業所が質の高い支援を行えるよう力を尽くしていきたいと考えています。

アメニティーフォーラム17

『アメニティーフォーラム17』参加報告

平成25年2月8日～10日、滋賀県の琵琶湖畔にて毎年開催される「アメニティーフォーラム」に初めて参加しました。障がい者福祉の現場で活躍する支援者だけでなく、国や地方の行政機関、政治家など、さまざまな立場の方が一堂に会し、まさに国民的な議論を生で体験することができた研修だったと思います。

基幹相談支援センターの相談支援専門員という立場で、ご報告申し上げますと、相談支援については、すでに計画相談支援が始まっています。個別給付を利用している全ての方に原則、「サービス等利用計画」を作成しなくてはなりません。平成27年3月までに計画作成が完了する方向で動いていますので、残り2年を切りました。しかし、時間がないからと言って、ついつい「立てなければいけない。」という視点で計画を作成してしまいがちですが、そうではなく、サービス等利用計画は、「なぜ、その人に支援計画が必要か。」という視点で立てなければいけないということが、このフォーラムに参加して改めて認識できました。また、相談支援のシンポジウムに登壇していたNPO法人の副理事長であり当事者の保護者でもある方は、「本人の将来をイメージできる計画を相談支援専門員にお願いしたい。」とお話されていました。単にサービスを調整するのではなく、その人にとって何が必要か、どういう目的をもってサービスを提供するのか、しっかりとしたアセスメントに基づいた計画作成を心がけたいと思います。

最後に、アメニティーフォーラム17に参加させていただきましたこと大変感謝申し上げます。みなさんのご協

力なしでは、24時間365日稼働している中で参加することはできません。ありがとうございました。

【浦安市基幹相談支援センター K】

『思いを新たに』

2月8日～10日の3日間、アメニティーフォーラムに参加させていただきました。

障害福祉に関する様々な講演が開かれていましたが、中でも私が印象に残ったのは、『行動障害を改善させる技術、人、環境』という講演の中の、北海道にある「はるにれの里」の話です。

行動障害の激しい方たちが地域で暮らすことを考え実践しており、実際に重度の自閉症で自傷他害のあった方が一人暮らしをし、2年間まったく自傷他害は起きていないという事例を映像とともに見せていただきました。具体的な支援方法すべてを知る事は出来ませんでしたが、障害の重い方でも、支援次第で地域で暮らすことは難しくないんだ、そんな支援を私もしていきたいと思いを新たにすることができた講演でした。

たくさんの講演を聴いて感じた事があります。それは、これから目指そうとしている事のほとんどは、ともがすでに実践しており、私が働き始めてからすでに教えられてきた事だということです。新しい発見というのは少なかったですが、地域福祉に関わる人がたくさんいるということ、色んな考えにふれることが出来たことはとてもよかったです。

【浦安市障がい者等一時ケアセンター T】

24 年度の実績 と 25 年度の方針

法人本部

24 年度は皆様のご支援により本部が復興し、やっと腰を落ち着けて仕事ができただけで一年でした。心から感謝申し上げます。障害児通所支援事業と日中一時事業の新規事業のスタート、新たに浦安市身体障がい者福祉センター、浦安市基幹相談支援センター事業に応募し、採択されました。理事会・評議員会やとも通信の発行、採用活動や助成金の申請などの活動に加え、内部では職員に対する人材育成にも注力し、延べ 2727 名が研修を受講しました。職員の衛生管理、福利厚生として産業医による職場巡視及び職員との個別面談の提供、勉強会、衛生委員会を実施し、利用者の方々に支援する職員の体調面や職場環境面でのサポートも実施しました。

また、ともが行っているサービスを地域や社会に還元できるよう、厚労省をはじめ様々な視察受入を行いました。これまでの活動をご評価いただき、千葉県遊戯業協同組合様・千葉県ヤクルト販売株式会社様・浦安遊技場組合様より、「ヤクルト福祉車両」を寄贈していただきました。25 年度も地域に根ざしたサービスの提供に取り組んでいきます。

居宅介護支援事業

最近では、急性期対応型病院から療養型病院に転院しなければならないという方が、在宅での療養を希望され、生涯自宅で暮らしたいという利用者様が多く見られます。このような方の支援として、退院前の医療機関でのカンファレンス（関係者会議）、退院後の担当者会議等が非常に重要となります。退院後は家族を含めた、在宅での生活を支えるための社会資源である在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、訪問介護事業所等の連携と介護情報の共有等がしっかり行われることが利用者様の安全で快適な在宅生活に繋がります。これからも利用者様に寄り添い、希望に添った支援を行っていきます。

就労支援事業部（浦安市斎場売店）

浦安市斎場内売店は、2 名の当事者職員が勤務しています。お仕事の内容は、注文に応じて飲料を出したり、お布団をお部屋まで運び、使用後は、シーツ換えもします。効率よく作業が出来るように日々試行錯誤しています。住み慣れた地域で働き、自分らしく生活が出来るのが励みになっているようです。今年度は、職場体験の受け入れを積極的に行っていく予定です。

浦安市基幹相談支援センター

平成 25 年度より、浦安市障がい者総合相談支援事業を受託していた総合相談センターは、浦安市基幹相談支援センターとしてスタートを切りました。今年度は、地域の人材育成支援を目的に、研修会や講演会、相談支援専門員を対象とした実務者会議を開催し、地域の相談体制の中核機関として、基幹が有する人的、物的資源を地域に還元していきます。

平成 24 年度は、法改正に即して、当センターも計画相談、市の虐待防止センターとの連携事例など、様々な相談に対応しました。基幹相談支援センターとして、これまで同様、ワンストップ相談窓口として、相談支援を実践していきます。

地域活動支援センター事業部

24 年度、今川センターでは、これまでの地活での経験から自信をつけ、公民館の活動に参加できるようになった等、利用者さんの地域生活が広がる様子が見られました。駅前センターでは、ヤマト福祉財団の助成をいただき、倉庫や空調等の改装を実施。現在は、空気の循環・商品の出し入れ作業での負担や危険が改善され、利用者さんは、仕事に一層熱が入っています。25 年度も、利用者さんが主体的に地域生活を送るための黒子となり、地域の方々に巻き込んでいく地活になっていきます。

パーソナルケアセンター事業部

利用者さんの入院中に病院内で利用者さんと医療職とを繋ぐ支援としてのコミュニケーション支援の提供やヘルパーとの外出のサービスを通して利用者さん自身の気持ちを少しずつ相手に伝えられるようになり、自立に向けての第一歩を踏み出した方もいらっしゃいました。

利用者さんの一人ひとりの希望に沿って色々な制度やとも独自のパーソナルケアサービスなどを組み合わせ、24 時間 365 日のともだからできるサービスの提供を今後も行っていきます。

千葉県障害児等療育支援事業

千葉県から委託を受けて実施した相談事業です。平成 24 年度も療育に関することや幼稚園、学校での問題点など多岐にわたり保護者の方から相談がありました。また異年齢の障がい児のお母さんたちが気軽に情報交換や愚痴など言い合えるおしゃべり会“交流スペース”も年 6 回開催いたしました。平成 25 年度も子どもたちの生活に密着した療育、教育に関する相談事業を行っていきますので、一人で悩まないで、まずお問い合わせください。一緒に考えていきましょう!!

浦安市障がい者等一時ケアセンター

浦安市の障がい児・者、難病認定を受けた方のセーフティーネットである一時ケアセンター。平成 24 年度も 24 時間 365 日、いざという時に頼りになるセンターとしてご利用頂きました。今年度は将来の自立生活に向けて宿泊利用される方が増え、調理や洗濯、掃除など目標を決めて取り組み、その技術を獲得し自信にもつながりました。また個人的な急用等で利用したいというニーズにもこたえ、当日利用が出来るようになりました。

平成 25 年度は国の制度に移行していきます。そして、今まで同様緊急一時施設として 24 時間 365 日の運営にも力を注いでいきたいと考えています。

児童発達支援事業所 ふあり

未就学児の療育、親子関係はとても重要です。この時期だからこそお母さん、お父さんが子どもと一緒に遊んだり、特性を理解したり、同じ立場の保護者同士話をしたりして、次第に子どもと向き合うことができていきます。午前中のペアレントトレーニング、個別療育（認知、PT）、お子さんだけをお預かりして小集団での関わりを学ぶ午後プログラム、保育所等訪問支援事業などを実施しました。平成 25 年度もお子さん、保護者の方にとって安心して通うことができる、必要だと感じてもらえる療育の実施を目指して頑張ります。

療育事業

平成 24 年度も 8 事業を行いました。イルカスイミング、ムーブメント療育、音楽療法、造形教室、クレヨン教室、療育・手づくりパン教室、卓球教室、では講師、コーチの指導のもと低年齢の子どもたちには、様々な療育効果をあげることが出来ました。また年齢が 20 歳を過ぎた方たちにも自信をつける場として、また余暇を楽しむ場面として生活の質を上げる効果を発揮できました。生活塾は平成 24 年度より日中一時支援事業に移行し実施いたしました。平成 25 年度も今年度同様、療育効果を上げることが出来るように取り組んでいきたいです!! 随時見学、体験は可能です。興味のある方はお早めにご連絡ください!!

日中一時支援事業

平成 24 年度から療育事業の生活塾を移行して日中一時支援事業として実施しました。療育的な視点から 6 名という固定のメンバーで行い、調理やお手伝い買い物、パソコンなど色々なプログラムに挑戦しました。活動を通して子ども同士の関わりが深まったり、広がったり、成長がみえました。平成 25 年度もさらに一人一人の目標を達成できるように取り組んでいきたいと考えています。

浦安市身体障がい者福祉センター

本年度、浦安市身体障がい者福祉センターの指定管理者となり、これから 10 年間の運営を委託されました。これからは、これまでの身体障がい者福祉センターに加え、浦安市内在住の 15 歳以上（中学卒業後）の身体障害者手帳所持者が利用できるようにしました。さらに、今年度中に身体障がい者福祉センター内に自立訓練と生活介護を併せ持つ多機能型事業所をつくります。このことで、高齢者中心の今までの利用者に加え、医療的ケアの充実を行い、重度の障がいをもつ方、中途障がいの方など、幅広い利用者に対応できる体制を整え、若い方たちのニーズにも対応します。

浦安市基幹相談支援センターとして

浦安市障がい児・者総合相談センターは、平成15年から10年間、市の委託相談支援事業所として相談支援事業を実施してきました。昨年10月の公募を経て、4月1日より、浦安市基幹相談支援センターとして、新たなスタートを切っています。

事務所の看板も「基幹相談」に変え、職員は、ちょっとまごつきながら、「基幹相談支援センターでございます」と電話に出ています。利用者さんは、電話口で、「んっ?!」と一瞬、間が空きますが、これまで通り、担当の相談員にアクセス出来る事で、安心していただけている様です。

昨年度、浦安市地域自立支援協議会に参加されていた関係機関の皆さんは、「分かっていた」事で、既に「基幹」という名称であったのごとく普通の対応。ごく稀に、訪問介護事業所や、医療機関の方からは、「あれ、名前、変わりました?」とご質問を受けますが、職員体制に変わらない事を知ると、「これまで通りなんですね」とさっと確認のやり取りがある程度です。

改めて、総合相談から「基幹相談支援センター」に変わった事で、何か変わりますか?と聞かれれば・・・実は、センターがやること(事業の中身:ケースワーク、自立支援協議会事務局、24時間365日の相談体制など)は、あまり変わらないのです。よって、地域の皆さんや、利用者さんから聞かれる「これまで通りですね」というコメントは、当たらず遠からずの「正解」です。

とは言え、「基幹相談支援センター」として、求めら

れていることは、地域の相談体制の強化です。その具体的な取り組みとして、「人材育成支援」に力を入れていきます。

○相談支援専門員を対象とした相談支援スキルアップ研修の開催

○定期的な事例検討研修会の開催

○障がい特性や支援スキルを学ぶための勉強会の開催

○相談支援の実務者を対象とした「相談支援実務者会議」の開催など・・・

当センターをバックアップしていただいている素晴らしい講師陣を迎え、自己研鑽、学びの機会を地域に提供していきます。

基幹相談支援センターが、支援者の方、利用者の方、色々な方たちが、気軽にアクセスできる拠点として、そして、何より、障がいのある方、そのご家族の人権が尊重され、自分らしい生活を実現していくために、職員一同、より一層、頑張りたいと思っています。



【浦安市基幹相談支援センター Y】

後援会「ともと歩む会」のお知らせ

こんにちは。新しい年度を迎え、ご健勝のことと思います。

先日行われた入社式に、私も出席いたしました。フレッシュな新入社員の皆さんの自己紹介があり、皆、ご自分の言葉で、経歴や仕事の情熱、意気込みをお話しされて、とても感動しました。

頼もしい職員に育ってくれることを確信しました。

4月は新しいことが始まる時期です。皆様の中にも、ご家族が進入学されたり 就職された方もいらっしゃると思います。フレッシュなパワーに負けないように、感謝の心を忘れずに 頑張っていきたいものです。

「ともと歩む会」申し込み方法

- ◆年会費は 3,000 円です。
- ◆会員と賛助会員を選んで頂き、必ず振込取扱表の通信欄に明記ください。

口座番号・郵便振込先：00120-0-536557

名 義：中田光昭

- ◆会 員…時間があるときにお手伝いいただける方
- ◆賛助会員…お手伝い等出来ないがご寄付等の応援をしていただける方

発行：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52

〈編集後記〉今年の桜は例年より早く咲いてしまい、春の嵐も吹き荒れて、入学式の時期には葉桜になってしまいました。残念にも思いましたが、青々としたその生命力に力強さも感じました。【H】